

➤ 19日 火曜

黙示録

1:9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟で、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐にあずかっている者であり、神のことばとイエスの証しのゆえに、パトモスという島にいた。

1:10 私は主の日に御霊に捕らえられ、私のうしろにラツパのような大きな声を聞いた。

1:11 その声はこう言った。「あなたがたのことを巻物に記して、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアに送りなさい。」

1:12 私は、自分に語りかける声を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台が見えた。

1:13 また、その燭台の真ん中に、人の子のような方が見えた。その方は、足まで垂れた衣をまとい、胸に金の帯を締めていた。

1:14 その頭と髪は白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は燃える炎のようであった。

1:15 その足は、炉で精錬された、光り輝く真鍮のようで、その声は大水のとどろきのようであった。

1:16 また、右手に七つの星を持ち、口から鋭い両刃の剣が出ていて、顔は強く照り輝く太陽のようであった。

1:17 この方を見たとき、私は死んだ者のように、その足もとに倒れ込んだ。すると、その方は私の上に右手を置いて言われた。「恐れることはない。わたしは初めであり、終わりであり、

1:18 生きている者である。わたしは死んだが、



見よ、世々限りなく生きている。また、死とよみの鍵を持っている。

1:19 それゆえ、あなたがたが見たこと、今あること、この後起ころうとしていることを書き記せ。

1:20 あなたがわたしの右手に見た七つの星と、七つの金の燭台の、秘められた意味について。七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

世の終わりという厳かな啓示は、「七つの教会に送りなさい。」というように、キリストの教会に伝えられました。それゆえ教会にはその啓示を伝え広める使命があると言えます。

またそれは希望の使信として語られるのであって、救われて終わりの日に希望を持つ教会だからこそ正しく伝えられるのです。

ですから、先ず明らかにされたのは「人の子のような方」、すなわちイエス様です。ここに示されている厳かなイエス様こそが私たちの救い主でありますから、私たちは心強いのです。

死や終末という究極の出来事に主イエスが希望です。ましてや今を生きるのもイエス様こそが希望であることは言うまでもありません。

やがてイエス様が勝利のさばき主としておいでになるときには、教会は御前できよく傷のないものとして立つことが主のみこころです。ですからこの書のように、教会は終わりの日のために叱責され、整えられる必要があるのです。これら七つの教会はどの時代にも、またどの教会でも自省してみる必要がある共通点を持っています。私たちの教会はどうでしょうか。また教会の一部である自分自身はどうでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

